CLF

同志社大学
学習支援・教育開発センター レポート

REPORT

Center for Learning support and Faculty development report

2014.10
vol.21

CONTENTS

01
2014年度の設置部会
開催報告
2014年度新任教員研修会・TA研修会
2014年度ナンバリング作業説明会
各学部・研究科・センターFD活動報告
P2-P3

02
ラーニング・コモンズ運営状況
コモンズカフェ
協同学習ワークショップ
アカデミック・インストラクター紹介 ／ 学習相談
P4-P5

03
2013年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」について
大学進学理由
授業に対する取り組み方
受講した授業の形態・方法
P6-P8

04
各学部・研究科・センターFD活動費について
出張アカデミックスキルセミナー
学外FD企画参加記 ／ FD関連企画のご案内
新着図書情報 ／ 2014年度『大学入学準備講座』のご案内
コラム 大学教育の今「大学教育の国際通用性とは？」
P9-P12

2014年度の設置部会

ＦＤ支援部会

教育内容・授業方法の改善を推進するとともに、教育効果に関わる全学的な企画の検討を行うことを目的として設置されています。

部会長／山田 礼子

2014年度事業計画

①アンケート調査の実施と調査結果の利用促進、調査方法の検討
②「大学入学準備講座」の企画
③ＦＤに関する意識高揚活動の実施
④ＦＤ講演会・ワークショップの開催
⑤その他（検討を必要とする各種課題）

大学院教育検討部会

本学の大学院教育充実のために、教学支援体制ならびに学生支援体制の強化の諸方策を検討することを目的として設置されています。

部会長／武藏 勝宏

2014年度事業計画

①大学院生のキャリア形成支援方策の検討
②ＴＡ研修制度の検討
③大学院教育充実のための情報提供と意見交換
④修士論文審査基準の検討

学習支援検討部会

本学における学習支援活動や学習支援環境（ラーニング・コモンズ等）の運営方法を検討することを目的として設置されています。

部会長／百合野 正博

2014年度事業計画

①学習支援プログラムの企画・開発と評価方法の検討
②学部教員（初年次教育担当者等）との連携協同モデルの検討
③良心館ラーニング・コモンズの広報活動の強化
④京田辺校地ラーニング・コモンズの運営方針の検討

開催報告

2014年度新任教員研修会・TA研修会

今年度の新任教員研修会を４月２日に、ＴＡ研修会を４月４日・７日・８日に開催しました。各研修会の動画・資料を下記のページで公開していますので、ぜひご覧ください。

新任教員研修会　「教職員のページ」（本学教職員のみ閲覧可能）

TA研修会　http://clf.doshisha.ac.jp/ta/ta.html

新任教員研修会の様子

今年度は61名の参加がありました。

TA研修会の様子

３日間の開催で合計414名の参加がありました。

2014年度ナンバリング作業説明会

ナンバリング制度導入にあたり、ナンバリング作業基本（暫定版）の形式・ルールにもとづき、作業の進め方や手順を確認することを目的として、昨年度のワークショップに引き続きナンバリング作業説明会を開催しました。

日時 8月7日（木） 10：00～12：00

会場 今出川キャンパス良心館309番教室

講師 田中正弘氏（弘前大学21世紀教育センター高等教育研究開発室長）

当日は、昨年度もナンバリング試行ワークショップで講師を務めていただいた、弘前大学の田中正弘先生にお越しいただき、はじめに「グローバル化に向けた科目ナンバリングの作成」と題して、ナンバリング制度の基本的な考え方や学内ルールと作業の留意点、作業過程で予測される疑問点等についてお話しいただきました。その後、各学部等からの参加者が各自の履修要項・シラバスをもとに、各学部の設置科目一覧に科学研究費細目表をもとにした分類と体系的なナンバーの付与を行うナンバリング体験作業を実施しました。質疑応答では、オリジナル番号の付与等、今後ナンバリング作業を進めるにあたって予想される課題について参加者より質問が寄せられ、積極的な意見交換が行われました。

当日の動画・資料を「教職員のページ」内の「教職員研修」ページ（本学教職員のみ閲覧可能）で公開していますので、ぜひご覧ください。

各学部・研究科・センターＦＤ活動報告

このコーナーでは、各学部・研究科・センターにおけるＦＤ活動の報告を順次掲載していきます。

生命医科学部　廣安 知之

生命医科学部・医情報学科では、2012年度より毎年８月に、京都市内にて１泊２日のFD合宿を行っている。今年も８月に専任教員全員を対象とした同合宿を開催した。普段の学科会議では、細々とした雑務の遂行や承認業務に追われ、１つ１つの項目になかなか時間をとった深い議論ができない。個々の教員の能力の向上を目指すことは必要だが、学科全体としてどちらの方向にどのような予定で目指しているのかを再確認し、学科全体のシステムの質の向上を図ることも重要だと考えている。特に、2008年度に発足した新しい学部・学科であるので、反省し次のアクションにつなげるいわゆるPDCAサイクルを回すことは重要である。これを行うのが、泊まりこみのFD合宿であり、４から５つのセッションにわけて議論を行っている。この結果、カリキュラムの見直しを行い、新しい科目の設置や中身の変更を行うことができた。また、研究についても、共同でできる部分などを模索し、外部資金導入を行う計画も立て、一部では成果が出ている。

スポーツ健康科学部　石倉 忠夫

本学部は学部開設と同時にFD委員会を立ち上げ、7年が経過した。本学部FD委員会は教員全員で構成されることで教授会との連動性を高め、小規模学部の特性を活かした組織を構築している。これまでに旧カリキュラムを見直し、新カリキュラムを導入してから３年目を迎えている。現在、一昨年度に行った学部・研究科の自己点検評価を契機として毎年度自己点検評価を行い、これを基に次年度の本学部・研究科のFD活動への取り組みの骨子を作成するという循環を作り上げようとしている。2015年度開講に向け、ファースト・イヤー・セミナーの少人数教育実現を目指すための開講時間割の検討、海外の大学やスポーツ施設でフィールドワークを展開する演習科目の検討、資格に関わる授業の集中講義設置の検討、演習（ゼミ）設置曜日講時の柔軟化、そして各種推薦選抜入試の選抜方法をFD活動の検討事項として取り組む計画である。

グローバル・スタディーズ研究科　菅野 優香

グローバル・スタディーズ研究科は、現代の世界が直面するグローバル・イシューを理解し、それらに多角的な視点から取り組むことを基本理念に掲げ、教育研究活動を展開してきた。本研究科では、学生が領域横断的に学べる環境を整備するために、教員が各クラスターの枠を超えて、学生全員に教育責任を負うという体制をとっているが、その試みのひとつが「グローバル・ジャスティス」「アメリカン・ディアスポラ」「いま中国にどう向き合うか」といった研究科セミナー・シリーズの開催である。内外のさまざまなジャンルの専門家との対話を通じて、教員は、自らの研究を社会的に発信するとともに、学生の積極的な参加を呼びかけ、幅広い知見の獲得と、グローバルな社会問題に対する批判的思考力の伸長を促している。現在、教育活動の一環として開催している「国際会議」では、学生が議長を務めるなど、研究と教育、教員と学生が有機的に連動した領域横断的なプロジェクトに取り組んでいる。

ラーニング・コモンズ運営状況

コモンズカフェ

良心館ラーニング・コモンズでは、学生の知的好奇心を刺激する機会の一つとして、2013年11月より、学内外の研究者をお招きしてカフェイベント「コモンズカフェ」を実施しています。

コモンズカフェは、お茶を飲むカフェのように気軽な雰囲気の中で、様々な分野の研究者と10名～15名程度の少人数の学生とが一緒にトークを行い、学部を超えた交流を持ってもらうことを目的としています。2014年度の開催状況は以下の通りです。今後も月１回のペースで開催予定です。

日　程	ゲスト	テーマ
4月23日（水）	商学部　百合野 正博　教授	大学は知的ワンダーランド
5月29日（木）	社会学部　浦坂 純子　教授	『計画された偶発性』をものにする ー流されず、逆らわず、のキャリアデザイン指南ー
6月25日（水）	理工学部　馬場 吉弘　教授	グリーンエネルギー風力発電の可能性
8月5日（火）	グローバル地域文化学部　錢 鷗　教授	新聞・ＴＶだけではわからない現在の日中関係
10月28日（火）	政策学部　中野 民夫　教授	みんなの楽しい修行 ～より納得できる人生と社会のための10のこと～

協同学習ワークショップ

6月20日、講師に関田一彦氏（日本協同教育学会会長／創価大学教授）をお招きし、ラーニング・コモンズ２階のプレゼンテーションコートにおいて、協同学習体験ワークショップ「仲間との学びをグレードアップするスキルを学ぶ」を開催しました。

関田先生からは、学生同士で互いの学びを高めあう協同学習の魅力や、学生が学生の学びをサポートする有効な方法について、実践的なワークを通してレクチャーしていただき、参加した大学院生・学部生は熱心にグループワークを行っていました。次年度以降も学生の学習に役立つワークショップの開催を予定しています。

アカデミック・インストラクター紹介

良心館ラーニング・コモンズには、学生の学習相談や各種学習イベントの企画・実施等を行うアカデミック・インストラクターが常駐しています。2014年4月に着任したアカデミック・インストラクターをご紹介します。

濱嶋 幸司 （はまじま　こうじ）

私は本学へ2014年４月に着任いたしました。研究としましては、アンケートの手法を用いて、主に大学生の意識や実態を調査し、社会学的に分析・報告をしています。これまで従事してきた職場では、学生支援事業の現場管理、学習支援ツールの作成、教学IRのためのデータ分析といった業務に携わってきました。この10年間で、高等教育とりわけ大学を取り巻く環境が、めまぐるしく変わってきたことを実感しております。これらの私の経験を現在の職場である良心館ラーニング・コモンズ３階アカデミックサポートエリアでの業務に生かしていきたいと思います。良心館ラーニング・コモンズが学生さんにとって最適な学習施設となるために、関係スタッフの皆様と協力しながら、日々努力してまいります。現場の経験と研究の視点を交えながら、「学習支援として何が求められているのか」、そして、「私たちに何ができるのか」を考えていきます。全ての学生さんに、学ぶことの楽しさ・喜びを得てほしいと思います。この目標達成に向けて、皆様にはいろいろとお力をいただくことになりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

得意分野：社会学／大学生・青少年文化／社会調査とデータ分析

学習相談

良心館３階のアカデミックサポートエリアでは、アカデミック・インストラクターやラーニング・アシスタント（LA）※が学生の学習相談に乗っています。

開設初年度の2013年度には、延べ755名の学生から約1,040件の相談を受けました。特に「レポートの書き方」に関する相談が多く、「プレゼンテーションの方法」や「文献の調べ方」についても相談が寄せられています。

※ラーニング・アシスタント（LA）とは…

ラーニング・コモンズで学部生の授業外学習に関する助言、相談業務を担当する大学院生スタッフです。開講・試験期間中の平日11時から19時までの間、様々な分野の大学院生が学習の疑問をアシストしています。

良心館ラーニング・コモンズの情報は、以下のURLよりご参照ください。

良心館ラーニング・コモンズHP　http://ryoshinkan-lc.doshisha.ac.jp/

※学習支援・教育開発センター HP（http://cdf.doshisha.ac.jp/）からでもアクセス可能です。

2013年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」について

学習支援・教育開発センターでは、2004年度から「キャンパスライフに関するアンケート調査」を実施しています。この調査は、学生の学習状況や意識を捉えることで本学の教育改善につなげることを目的とし、毎年３月下旬の成績交付時に、１年次および３年次の終了時点の全学生を対象に調査を行っています。2013年度は１年次調査で4204件（回収率65.4%）、３年次調査で3614件（回収率57.2%）の回答を得ました。

CLF reportでは、この時期、本調査で得られたデータを用いた報告をおこなっています。今回は2008～2013年度の１年次データから、学生の『大学進学理由』『授業に対する取り組み方』と同志社大学の提供する『授業形態・方法』を経年的にとらえ、学生と大学教育の関係を考えていきます。

学生と大学教育の関係

2008～2013年度１年次データを用いた経年変化より

まず、同志社大学へ進学した学生が、どのような理由で進学しているのかを確認します。ここでは、代表的な進学理由とされる10の質問に対し、どの程度重要視していたかをみていきます。経年変化を示した図１において、まず目につく変化は、「学ぶ内容に興味があった」「教養を身につけたかった」「専門的知識」といった進学理由に重きをおく傾向がみられることです。『大学での学び』を大切にする学生が、徐々に増える傾向が読み取れます。また、「資格を取るため」を進学理由としない傾向もみられ、実学志向の弱まりがうかがえます。これも学生の進学理由が『大学での学び』に重きをおくようになった背景の一つであることを示唆しているといえるでしょう。ただ、一方で「周りの人たちが進学」「親の希望」を進学理由とする傾向がみられ、やや主体性に欠けた側面もみうけられることに注目も必要です。

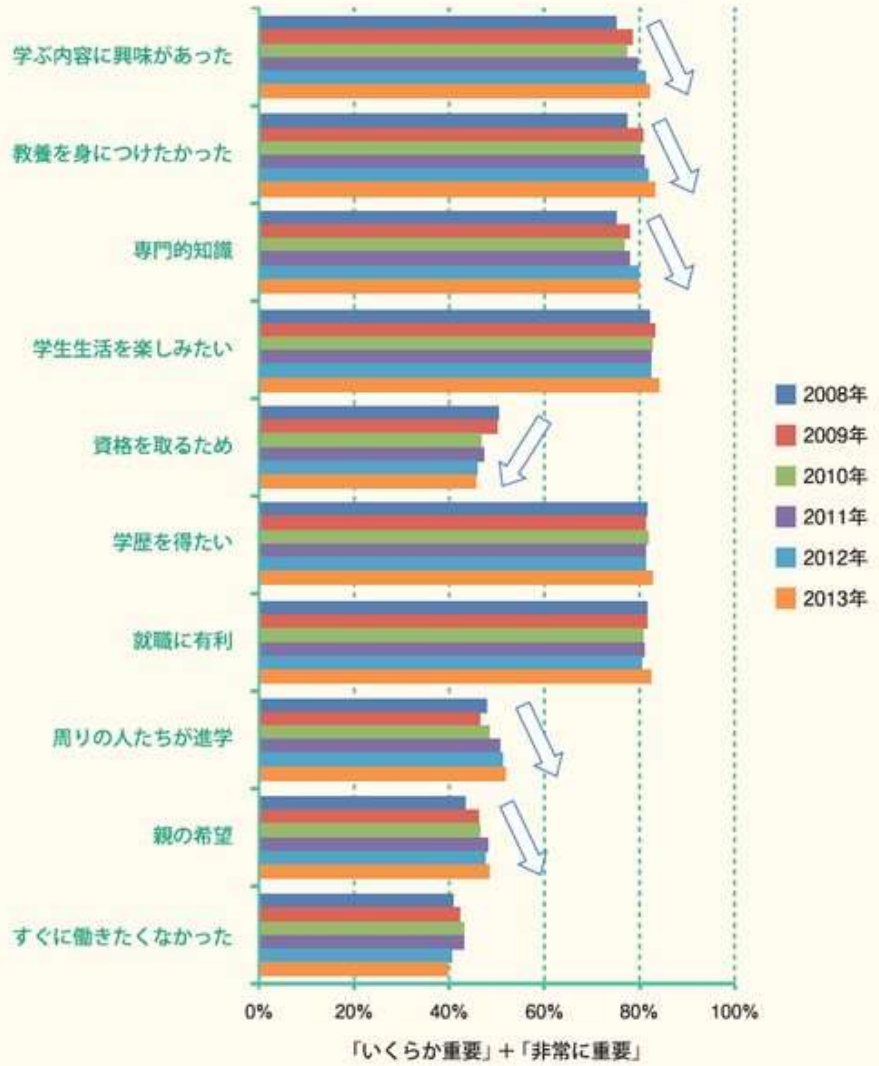

図１　大学進学理由（いくらか重要＋非常に重要）（2008～2013年度１年次データを使用）

では、入学した学生は授業に対し、どのように取り組んでいるのでしょうか。学生の授業に対する取り組み方は、図２に示す11項目を用いています。ここから総じてわかることは、授業に対し、学生がまじめに取り組むようになっているということです。こうした結果から、「大学生は勉強するようになった！」と判断したいところですが、留意が必要です。なぜなら、こうした取り組みは、教員のおこなう授業形態・方法に大きく影響を受けた結果をあらわすものかもしれないからです。

事実、学生の受講した授業形態・方法を経年変化で示した図３をみると、11項目のうち８項目において顕著な増加傾向がみられます。こうした結果は、教員によって学生に勉強を促す授業形態・方法がなされている様子を示します。つまり、「大学生は勉強するようになった！」という図２の結果は、教員の授業形態・方法を示す図３によるものではないかと考えられるわけです。

ただし、授業内で「ディスカッション」「学生によるプレゼンテーション」をする機会が増加傾向にある（図３）にもかかわらず、図２に示した学生の主体的な学びを多分にあらわす「授業内容について教員に質問する」「授業内容について他学生と議論」の経年的変化はほとんどみられません。

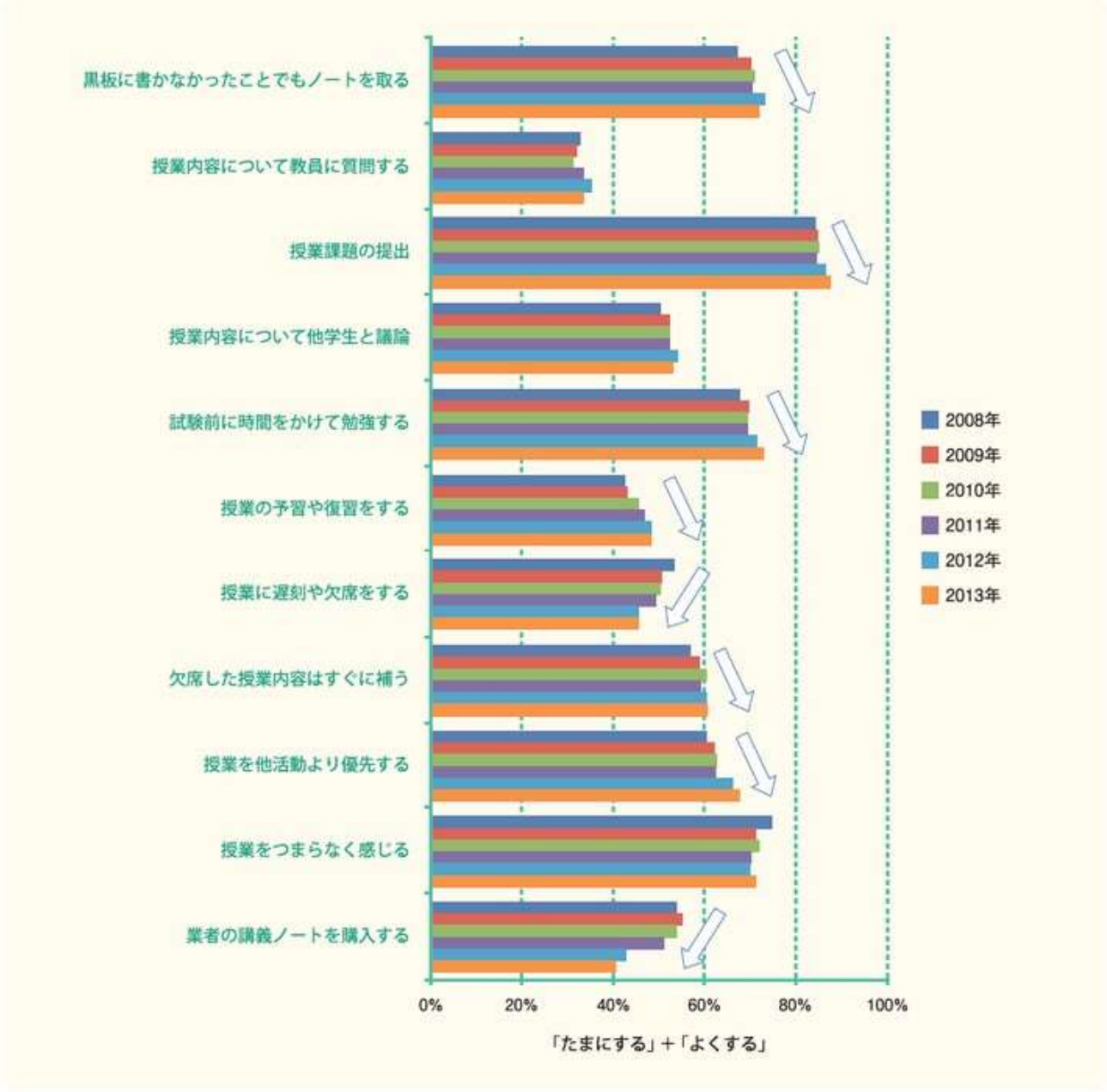

図２　授業に対する取り組み方（たまにする＋よくする）（2008～2013年度１年次データを使用）

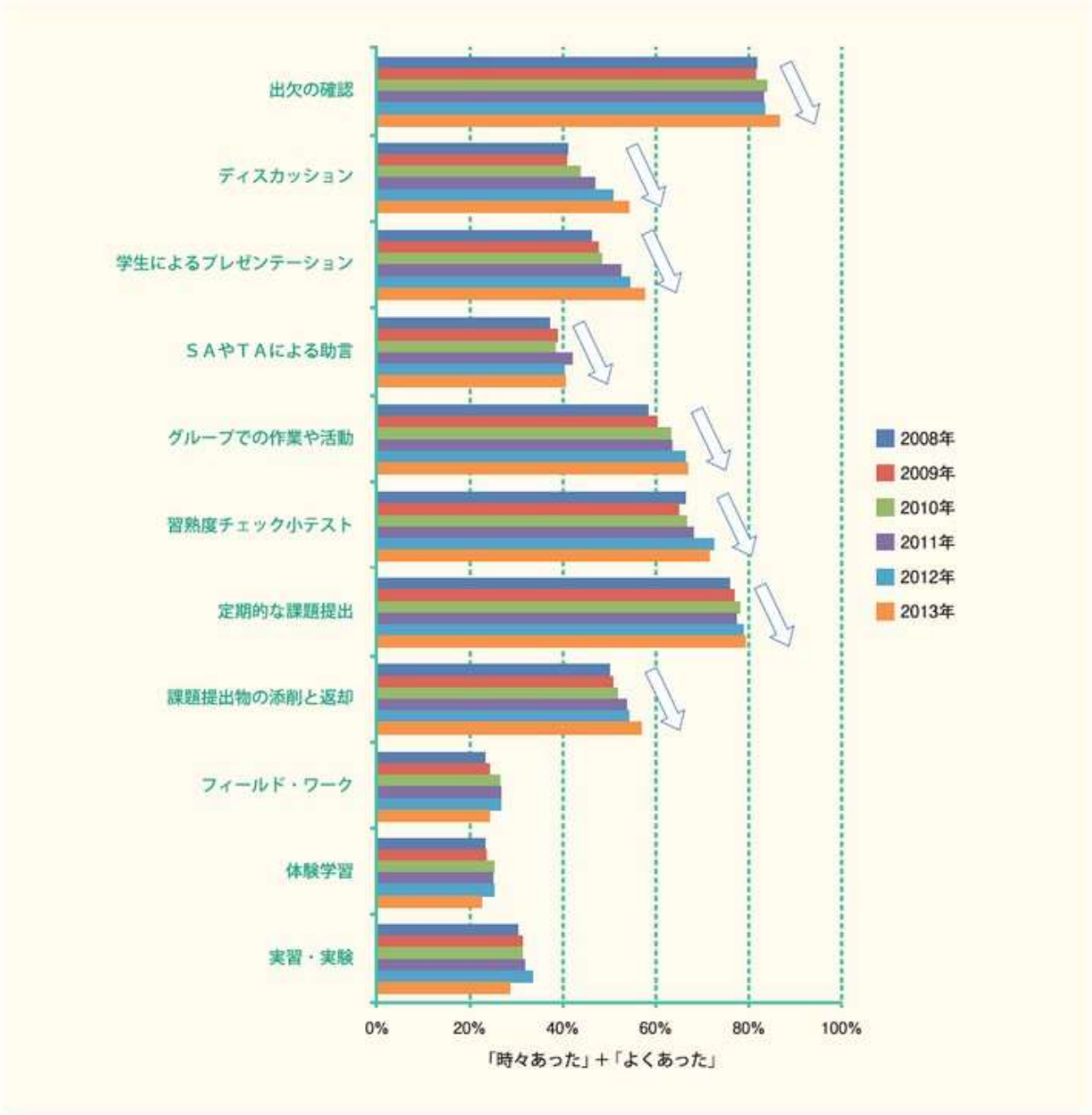

図３　受講した授業の形態・方法（時々あった＋よくあった）（2008 ～ 2013年度１年次データを使用）

短期間ではありますが、ここでは経年的に学生と大学教育の関係を検討しました。これら分析からわかることは、まじめではあるが主体性に乏しい学生が入学していること、そしてそのような受動的な学生は、定められた単位をまじめにそつなく取得し、卒業していく様子がみえてきます。大衆化した大学において、学校化ともいえるこうした趨勢は避けられないかもしれません。ただそれだけに、目まぐるしく変化する社会を生き抜くために主体性を持った学びの姿勢の獲得が求められる今日において、目先の成果に囚われない正しい施策が、今後、ますます重要となるでしょう。

変わりゆく学生・大学教育を社会全体の構造的変化とともに捉えるため、冷静な視点のもと、正しい調査と分析を通し、正確・誠実に学生を把握することが本調査に課された使命に思えてなりません。

以上、「キャンパスライフに関するアンケート調査」の集計結果の一部を紹介してきました。調査票および集計結果については、学習支援・教育開発センターのホームページにて公開する予定です。

キャンパスライフに関するアンケート調査のページ　http://clf.doshisha.ac.jp/investigation/investigation.html

各学部・研究科・センターＦＤ活動費について

学習支援・教育開発センターでは、各学部・研究科・センターレベルでのＦＤに関する取組に対し、年間一律30万円をＦＤ活動費として配分しています。以下の点に留意していただき、積極的な活用をお願いします。

ＦＤ活動費（ＦＤ支援費）の使用例

- 卒業時アンケート調査・新入生対象アンケート調査関連費用
- ＦＤ講演会・セミナー等開催関連費用
- 授業評価における専門的知識の提供に関する費用（講師謝礼）　等
- ＦＤ合宿関連費用
- ＦＤ関連書籍購入費用

留意事項

- 教員個人レベルでの研究会、研修会参加費、部会委員としての催しへの参加経費等は「教育開発調査活動費」制度より支出する。
- 補助の対象は非営利活動に限定する。また、文部科学省等の補助事業には使用できない。
- 補助を希望する場合は、事前に学習支援・教育開発センター事務室に申し出る。
- 会合費*を使用する場合は、本学専任教職員を補助対象とする（学外講師の会合費は補助可）。

＊ 会合費について

・研修会開催等の会議費用（昼夜を問わない）及び昼食時における学外講師との懇談費用の場合は１人あたり単価1,200円（税別）までとする。
また、夕食時における学外講師との懇談費用等の場合は１人あたり単価3,000円（税別）までとする。

・会合費にアルコールは含まない（会合費としての補助は不可）。

ご不明の点は、学習支援・教育開発センター事務室までお問合せください。

出張アカデミックスキルセミナー

学習支援・教育開発センターでは、大学での学びに役立ててもらおうと、良心館ラーニング・コモンズの教員によるさまざまなセミナーを行っています。

No.	セミナー名	概　要　※基本的に60～90分以内の単発セミナーとなっております。
1	学術文献の読み方	自らの課題、テーマを念頭に、どう文献を読み進めればよいのかをミニレクチャーと実習を通して学ぶ。
2	アイデアの拡張法	マインドマップと検索エンジンを使い、レポート・論文作成に役立つアイデア出しの方法を学ぶ。
3	伝わる文章の書き方	どうすれば伝わる文章が書けるか、ミニレクチャーと実習を通して学ぶ。
4	プレゼンの構成法	伝わるプレゼンの作り方・話し方等、事例を元にして学ぶ。
5	グループでのアイデア出し	グループで多くのアイデアを出す方法、またそれらの絞り方についてレクチャーと実習を通して学ぶ。
6	ソーシャルメディアの学術的利用法	ＳＮＳなどのツールを用いてウェブ上の情報を半自動的に収集する方法を学ぶ。
7	レポートの構成の立て方	テーマ設定のコツから構成の立て方など、レポート作成の基本を学ぶ。
8	ノートの取り方	聴きながら取る、読みながら取る。高校までとは違う、大学でのノートの取り方、まとめ方のコツを学ぶ。
9	ポスターの作り方	身近なツールを利用し、ポスター発表等で必要となるコツや技をサンプルを交えて学ぶ。
10	レジュメの作り方	授業やゼミの発表に欠かせないレジュメ。レジュメ作成のポイントを、ミニレクチャーと実習を通して学ぶ。
11	引用の方法	なぜ引用するのか、どのような引用形式があるのか。「コピペ」と言われないレポートのルールを学ぶ。
12	図・表の見方・作り方	グラフの意味や適切な使い方について説明する。図表内の数値の見方、作図・作表の方法を学ぶ。
13	ラーニング・コモンズ活用法	ラーニング・コモンズをフィールドとして、参加者の目線で活用法を考えるワークショップを行う。

出張セミナーをご希望の場合は、希望日時の２週間前までに、clf-seminar@mail.doshisha.ac.jpまでご連絡ください。メールを受理後、申込書を添付ファイルにて返送いたします。それに必要事項をご記入の上、ご返送ください。

※人員の関係上、必ずしもご希望日時に沿えない場合もございます。ご了承ください。
※休日は除きます。
※授業の一環としてご利用になられる場合は、担当教員の方のご同席が必要です。

学外FD企画参加記

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメーリングリストを通じて、FDに関連したセミナーやシンポジウムのご案内をしています。実際に参加された先生にセミナーの様子や感想をお伺いしていますので、今後の参加の参考としてください。
※今後開催予定のFD関連企画はp.11でも紹介しています。

平成26年度FD推進ワークショップ（新任専任教員向け）

テーマ　大学職員の職能開発とFD
日　時　2014年8月8日（金）～8月9日（土）
主　催　日本私立大学連盟

社会学研究科　李　善惠　助手

去る8月8日から二日間、私は新任教員を対象に、授業計画表やシラバスを実際に作成しながら、大学教員としての職能開発を行う演習中心のワークショップに参加した。このワークショップを無事に終わらせられるだろうか、また教員としての一歩を踏み出すことができるのだろうかという不安の中で、参加初日を迎えた。オリエンテーションで大学教員の職能開発（研究、教育、社会貢献、そして管理運営とのバランス）やFD（ミクロ・ミドル・マクロレベル）の意味についての説明を受け、大学教員としての在り方を改めて思い描くことができて良かった。次に、昨年度参加者の経験談を共有するパネル・ディスカッションが行われ、それぞれの教員の特徴や個性が感じられた。またグループメンバーとの討議のときは、他大学・他分野で活躍されている先生方から、その学校の状況や悩みなど、様々な話を聞くことができた。そして皆、新任教員として同じような悩みを抱えていることに気づくことができ、とても励まされた。その他にも、翌日の模擬授業のためのワークシートを作成する時間が設けられた。15分という僅かな時間の模擬授業計画であったが、その内容をどのようなものにするかを決めることが大変困難であった。翌朝、模擬授業の時間が始まった。とても緊張したが、質疑応答では各先生から今後の講義に活かせるような鋭い指摘や励ましの言葉などをたくさんいただくことができた。その後は、授業を営む立場ではなく、学生の立場として、専攻が全く異なる先生方の授業を聞きながら、どのように説明する方が分かりやすいのか、そして板書の書き方や声色、ジェスチャーをどうすればいいのかなど、多角的に私自身も振り返る時間をもつことができた。特に先生の情熱が伝わることで学生のモチベーションを高めることに繋がっていくということも改めて感じた。今まで見えていなかった様々な点に気づくことができ、大変勉強になった貴重な一泊二日間であった。

第4回授業デザインワークショップ

テーマ　よりよい授業のデザインと実践を身につける
日　時　2014年9月1日（月）～9月3日（水）
主　催　大阪大学

社会学部　竹内 幸絵　教授

ゼミでの活発な議論を促したい…というごく軽い考えで参加を決めた研修会だったが、予想をはるかに超えた充実したプログラムであった。来年2月に第5回も開催されるので、興味を持たれた方は是非参加を検討されたい。

講師は大阪大学教育学習支援センター副所長の佐藤浩章氏と同センターのメンバー。氏の編著書『大学教員のための授業方法とデザイン』（玉川大学出版部）が配布され、別のファイルも併用しながら、講義とグループワークが繰り返されていく。学生を活気づけるシラバスの効果的な書き方、評価方法による学習意欲の引き出し方、ワールドカフェ、クリッカー、EQトーク、ペアワークといったアクティブ・ラーニングの技法概説など盛りだくさんだが、これらがまさにアクティブ・ラーニングの手法で進行されていく。長いかと思った2日半は、短く感じられるくらいだった。

後半は各自の授業を題材に改革を検討する。1日目も2日目も宿題が出され、当日夜中12時までにメールで提出する。最終日は各自がミニ授業を行い意見交換。その映像は研修終了後各自に配布されるという念の入りよう。ハードだったが実際に「使える」得難い成果を得ることができた。

事例紹介で感嘆したのは、学んだ成果をグループで即興劇の台本化して演じ、1人1台配られたiPadで撮影し定着を図るというもの。地味で難解な課題でもこのような手法をとることで、デジタル・ネイティブ世代は目を輝かせ、結果それが身になっていく。参加するまではおよそ想像もしていなかったが、学生自身が動くしかけを適切にとり入れることでここまで学びは変わるのだ。我が校でもこれをしなければと焦りさえ感じた。

受講者は阪大在席の教員が数名、それ以外の大学（長崎から東京まで）の10名、あわせて16名だったが、2日半を終えると、ひとつのクラスのような親近感を持つほどに濃密な時間が過ごせる。最後には修了式が行われ、修了証書も頂けてなんだか嬉しくなる。ほんとうに、オススメだ。

FD関連企画のご案内

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメーリングリストを通じて、学内外で開催されるFD関連企画を紹介しています。メーリングリストでの情報配信をご希望の場合は、学習支援・教育開発センター事務室までお知らせください（本学専任教職員を対象とします）。

今後、学外で開催される主な企画は以下の通りです。その他の企画についても随時お知らせしますので、積極的なご参加をお待ちしています。

研究科・研修会のご案内ページ　http://clf.doshisha.ac.jp/research/research.html

開催日程	企画名称	会　場
11月15日（土）	日本私立大学連盟　私立大学フォーラム	品川プリンスホテル
12月13日（土）	日本私立大学連盟　私立大学フォーラム	同志社大学 今出川キャンパス
11月29日（土）・11月30日（日）	大学教育学会　課題研究集会	神奈川工科大学
2月28日（土）・3月1日（日）	大学コンソーシアム京都　第20回FDフォーラム	同志社大学 今出川キャンパス
2月28日（土）・3月1日（日）	大学評価学会　第12回全国大会	神戸学院大学
3月13日（金）・14日（土）	第21回大学教育研究フォーラム	京都大学

※上記一覧は予定ですので、開催時期や会場が変更されることがあります。
※参加にかかる費用は学習支援・教育開発センターが負担します。

BOOKS　新着図書情報

学習支援・教育開発センターでは、大学改革やFD関係の図書資料を収集し、専任教職員の方に事務室で閲覧していただけるようにしています。貸出も可能ですので、センターに直接お越しになるか、ホームページ掲載の所蔵図書資料一覧をご覧いただき、ご希望の資料があればメールまたはお電話でご連絡ください。学内便でお届けします。

図書資料のご案内ページ　http://clf.doshisha.ac.jp/books/list.html

反転授業

ジョナサン・バーグマン、
アーロン・サムズ（著）
山内祐平、大浦弘樹（監修）
上原裕美子（訳）
オデッセイコミュニケーションズ
2014．5
ISBN：978-4-9905124-8-4

大学生の学びを育む学習環境のデザイン

ー新しいパラダイムが拓くアクティブ・ラーニングへの挑戦ー

岩崎千晶（編著）
関西大学出版部
2014．3
ISBN：978-4-87354-575-2

大学生の学習ダイナミクス

授業内外のラーニング・ブリッジング

河井亨（著）
東信堂
2014．3
ISBN：978-4-7989-1224-0

＊センターで所蔵した方が良いと思われる書籍等がありましたらご推薦ください。また、図書の他にも、FDに関する雑誌・機関紙や報告書等を収集しています。上記の「図書資料のご案内ページ」よりご覧いただき、ご活用ください。

2014年度『大学入学準備講座』のご案内

学習支援・教育開発センターでは、高校生向けに、大学で要求される学習の質と量を知ってもらい、正しい学部選択の機会を与えることを目的として、「大学入学準備講座」を開講しています。

この講座では、秋学期の土曜日の午後に、各学部・学科の教員が、それぞれの専門分野で扱う学問の内容から面白そうなテーマを選んで、実際の大学での講義と同じ形式で、高校生に授業を行います。

今後開講分の講座については受講申込みを受付けていますので、詳細は以下のURLよりご参照ください。

大学入学準備講座のページ　http://clf.doshisha.ac.jp/preparation_course/course.html

	13時10分 ～ 14時40分	14時55分 ～ 16時25分
9月27日（土） 今出川キャンパス	【講座①】キリスト教、イスラム教、ユダヤ教の関係 ―共通点と相違点― 神学部　越後屋 朗　教授	【講座②】現代日本政治の課題 法学部政治学科　森 裕城　教授
10月 4日（土） 今出川キャンパス	【講座③】日本企業での働き方-職場ルールの分析から 社会学部産業関係学科　寺井 基博　准教授	【講座④】英語コミュニケション ～グローバル社会で必要な技術～ グローバル・コミュニケーション学部　中村 艶子　准教授
10月11日（土） 京田辺キャンパス	【講座⑤】明日のために！～スポーツの目標設定法～ スポーツ健康科学部　石倉 忠夫　教授	【講座⑥】いのちの不思議 生命医科学部医情報学科　吉川 研一　教授
10月18日（土） 今出川キャンパス	【講座⑦】ことばのチカラ 文化情報学部　星 英仁　准教授	【講座⑧】世界はいま？進むグローバリゼーション とミャンマーのゆくえ 政策学部　岡本 由美子　教授
11月 8日（土） 京田辺キャンパス	【講座⑨】大学で学ぶいろいろな「化学」について 理工学部化学システム創成工学科　塚越 一彦　教授	【講座⑩】大学で学ぶ心理学 心理学部　中谷内 一也　教授
11月15日（土） 今出川キャンパス	【講座⑪】宗教を哲学してみよう 文学部哲学科　宮庄 哲夫　教授	【講座⑫】〈あいだ〉を生きる思想 ―ヨーロッパ・ユダヤ文化への扉 グローバル地域文化学部　小野 文生　准教授
11月29日（土） 今出川キャンパス	【講座⑬】マーケティングについて考える 商学部　崔 容熏　教授	【講座⑭】「エコノミー」と「エコロジー」 経済学部　岸 基史　准教授

Column 大学教育の今　「大学教育の国際通用性とは？」

高等教育の国際化が急速に進捗してきていますが、今後は、外国の大学とのジョイントディグリーやダブルディグリーがますます進展すると思われます。このような状況では、学位プログラムをいかに構築し、それが世界標準になるか、そのプログラムを通じて学んだ学修成果が日本だけのものではなく、世界でも通用するかという国際通用性が重要となります。それを支えるシステムが同志社大学でも現在整備しつつあるコース・ナンバリング（P.3上段参照）であり、世界中で拡がりつつあるチューニングと呼ばれる「育てたい人材像」「大学教育のアウトカム」を学問分野別に定義し、学修成果の獲得を目指す学位プログラムを体系的に設計・実践するための実践的手法です。

日本では日本学術会議において分野別参照基準が様々な分野において、議論され明示されるようになってきていますが、チューニングは個別の国における分野別での学修成果ではなく、国境を超えて学修成果が共有できることに主眼が置かれています。さらには、学生や雇用側にも学修の基準がわかりやすく提示することもチューニングの機能とされていることから、学修成果を社会の側も共有することにもつながり、雇用側から見たコンピテンスの質保証へとつながる可能性もあります。それを支えるシステムがコース・ナンバリングでもあるといって良いでしょう。コース・ナンバリングを通じて、学問分野や難易度、位置づけが明確になり、学士課程の科目全体を課程・専攻ごとに体系化が可能になります。さらには、国内外の大学との単位互換が容易になり、学位プログラムの等価性あるいは共同学位の授与へとつながるという機能を持っています。国境を越えて、学生が移動するだけでなく、単位やさらにはプログラムも移動する時代がすぐそばにきているといっても過言ではありません。

学習支援・教育開発センター所長　山田　礼子

CLF REPORT
Center for Learning support and Faculty development report

「シーエルエフ レポート Vol.21」
同志社大学 学習支援・教育開発センター レポート

発行日：2014年10月23日
発行者：同志社大学 学習支援・教育開発センター
京都市上京区　同志社大学　明徳館
Tel. 075-251-3277 Fax. 075-251-3025
E-mail. ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp
http://clf.doshisha.ac.jp/